

## ■安田小学校、清志郎と全校生徒との記念写真

先週の金曜日（6月3日）、国頭村役場の宮城明正さんから連絡をいただいた。「今日の午後納品されます」とのこと。

それは、宮城さんたちPTAのみなさんが、編集の労を担われた、安田小学校の120周年記念誌。

今日（6月6日）、役場を訪ねて記念誌を見せていただいて、驚いている。

貴重な誌面見開きで、忌野清志郎が2004年11月に同校を訪れたおりのことが紹介されている。

ボクは、小学館の「ビーパール」（2005年3月号）誌面で清志郎が沖縄本島一周の自転車の旅を行ったことを知った。清志郎の足跡を訪ねて同校を訪問したのは去年の4月のこと。

そこで、同校の「120周年」を知って、川口教頭先生やPTAの宮城さんに、「ビーパール」に掲載されている清志郎と当時の全校生徒との記念写真を記念誌に掲載していただくことを提案させていただいた。

清志郎の一ファンが、ご縁もない学校の記念誌の内容について要望するなど、今振り返れば、やりすぎ！である。が当時、一昨年亡くなった清志郎の「追悼サイクリング&ライブ」を企画していたボクは、少しばかり熱かったと思う。その「熱」が、厚かましいお願いゴトさえも平気にさせていたと思う。

「追悼サイクリング&ライブ」を実施するにあたって、2月にボクは、東京神田神保町の小学館「ビーパール」編集部を訪ねていた。写真データはお願いできるという確信があった。小学館である。子どもたち向けの出版物も多いわけで、その小学館が、小学校の記念誌編集に協力を惜しむわけではない。

で、ボクは小学館にメールを送り、電話をかけ、ロケ当時のフリーのカメラマン藤田修平さんとも連絡を取って承諾（著作権）を得、清志郎の事務所であるベイビーズの了解（肖像権）も取り付けた。



さて、記念誌のページである。最初に、12名の子どもたちとの写真。これがボクの希望だったのだが、当時区民の中に、清志郎を撮った方がいて、宮城さんが集めて4枚を追加しての誌面構成となっていた。



で、さらにボクが写っているもう1枚の写真。昨年、同校を訪ねた時に、清志郎が来た当時の子どもたちに会いたいと川口教頭先生にお願いをしていたので、連絡の取れた数名の子どもたちが集まってくれた。他は今年の在校生たち。

そこで、ボクは清志郎を真似て、校舎を背景に写真を撮らせてもらっていて、ブログに掲載してあったのだが、宮城さんがボクの許可・承認を得ないで勝手に掲載してしまった。しかも、ブログのコメントまで引用していただいている。もう、絶対に許せない！なんてことはなく、ボクとしてはなんとも居心地の悪いような嬉しいような…、大感激なのである。

ただ、宮城さんの誤解だと思うが、「忌野清志郎さんの自転車仲間の安井楓さん」となっている。ボクは一度も清志郎に会ったことがない。沖縄一周を3度失敗した彼が、4度目に来沖したら、会えるチャンスがあると信じてはいたが…。うーん、ボクとして異存ないけれど、清志郎がどう言うかですね。



宮城さんが清志郎にファンだったことも、この誌面が実現できた要因ではあるが、昨年安田区を訪ねた時、同区の方は「今でも、ニコニコと歩いていたあの人（清志郎）が亡くなったなんて信じられません」とおっしゃっていた。さらに、当時区民が撮った写真も提供されているように、天下のロックスターが突然やってきたことのインパクトは今も区民の心の中に響いている。清志郎が店先でキャンディーをかじっている写真が掲載されているが、その店内には、今も彼のサインが張られている。

さらに、全校生徒との記念写真も、カメラマンの藤田さんが語るように、「こんにちは～、と子どもたちが寄ってきた」ことで実現できた、偶然、ちょっとオーバーかもしれないが、奇跡の1枚なのだ。